

日本の印象 について

社会科学研究所博士課程後期
法律学専攻三学年

周 輝 煌

私は一九八六年四月、念願だった日本留学が叶い、中華民國・台湾から日本・広島に参つて、早くも五年と十カ月の月日が流れた。その間、広島地区台湾同窓会会長をしたことがあったゆえ、台湾人留学生をはじめ華僑、日本人と接触した機会に恵まれ、私なりの日本社会の体験すなわち日本の印象をここで述べさせて頂きたいと思う。

◆ 虎・不思議・親近感 ◆

私は幼い頃からギターを弾くのがとても好きで、ギターの下でよく練習をしたものであるが、その時の先生は日本が台湾を統治していた時代で日本の教育を受けた方なので、日本語ができ、よくナツメロの演歌「酒は涙か溜息か」や「達者でな」や「大利根月

夜」や「裏町人生」や「潮来笠」や「星影のワルツ」などの曲そして簡単な挨拶言葉なども教えてもらった。

その影響も手伝って、あの頃から日本に対し、親しみを感じていて、大学に進学した時に迷うこと無く、日本語を選修科目の第二外国語として学んだ。

台湾での学生時代、日本に対し「怖い国で、不思議な国」と言うイメージと、子供の頃に感じていた親しさが微妙に入り混じった、訳の分からない気持ちの中で、何かしら親近感を持つていたが、中国現代史を読む度に当時の中国が腐敗しきっていた状態を情けなく思うと同時に、その中国に対し「ソ連やかつての日本軍閥」がやった侵略に、憤りを覚えるものがあつた。

あの時代の中国にとって、ソ連は「狼のよ

うな危険な存在」であり、日本は「虎のように怖い存在」だったと記憶している。そして、あの忌まわしい戦争も終わり、廃墟となった日本は、僅か数十年の間に立ち直り、今や、アメリカを凌ぐ、世界的な経済大国になってきたが、いったい何が、日本をこのように、先進国になるまで発展させたのか、その原動力はいったい何処にあるのか「不思議」に思い、その興味は尽きることが無かつた。

◆ 鳩・新たな不思議・深まる親近感 ◆

広島に参つてから、私は本当の意味での「戦争の怖さ」を知り、「世界平和や国際親善」にかける、広島の皆様の情熱と努力されている姿を、私はこの目で見る事ができた。

特に、平和公園内にある「原爆資料館」には何度も足を運んだ。あの原爆を投下された時の広島の写真や無残な遺品の数々は、目を覆いたくなる思いがし、その光景が次々と脳裏に焼付き、戦争経験の無い私だが、戦争のもたらす悲惨さと平和の大切さを痛感している。

今も、原爆症の恐怖やその為の病に苦しんでいる多くの方がおられると聞き、何ら罪もない戦争犠牲の方達のことを思うと何ともやり切れない悲しい気持がしてならない。



福山ロータリークラブにて

また、それと同時に「平和の尊さ」を考え、深く印象付けられたことも事実であった。

平和都市と言われる広島は、「原水爆禁止運動や核兵器反対」などの座り込み、平和シンポジウムの開催、そして広島市長の「平和宣言」など、全世界に向けて「平和のための呼び掛けと努力」をされている皆様にも感謝している。

日本政府も憲法第九条「戦争の放棄」という原則を守り、平和を愛する国家としての道を歩み、第三世界や開発途上国に対してやっている経済や技術などの援助協力は、国際秩序の安定を図るだけでなく、世界平和にも大きく貢献していると思う。

私が、以前に抱いていた「怖い虎のイメージ」を見直し、今では、平和のシンボルである「鳩のイメージ」に変わり、平和を大切にする大國日本に生まれ変わったことを、肌で感じ、ますます好きになった。

なお、私が広島に参って間も無い頃、「アジア文化会館」で三年程生活していた。そこは広島駅北口から見える仏舎利塔の真下であり、とても眺めが良い所で、勉強の疲れを癒すために、よく広島島の美しい夜景を窓越しに眺めたものである。その視界に入ってくる殆どの高層ビルでは、深夜まで残業の明かりが点り、人の動きがよく見え、日本人のその勤勉さには感心していた。

先日、サラリーマンなどの「過労死」の問題が論議を呼んでいたが、日本人のこういっ

た勤勉さこそ、あの奇蹟的な復興と発展に繋がった大きな要因の一つと分かり、今まで不思議に思っていたことが解けてきた。しかし、私の目に写る「日本人の大学生達」は、勿論真面目な人もいるが……勉強嫌いの人がかなりいるように見える。この勉強嫌いで散漫な学生達が、一旦、企業などに就職したら一変して「おー、猛烈！」と言われる社員に変身し働き蜂となるのは、そのスイッチの切り替え、変わり身の速さにあると、実はまたまた、新しい不思議を発見してしまった。

最後に、私は広島に参ってから広大の指導教官の金沢先生、筑間先生をはじめ、多くの



金沢文雄先生のご研究室にて

新しい友達の皆様が親切に接して下さい、大変充実した留学生活を送らせて頂いた。

特にホストファミリーの加東さん・村上さんには親身になってお世話をして頂いたお陰で、私は日本の素晴らしい文化や風俗習慣と実生活を経験することができた。お正月の初詣とお節料理、日本海での魚釣り、山口の秋芳洞や安芸の宮島の見学、そして団地のお祭りやお花見など、様々な貴重な体験をさせて頂き、物凄く有意義な勉強ができた。

それに、広島では私達留学生のために色々有益な催しを企画して下さい、その上、奨学金の援助や医療費の補助、県内各所の文化施設の優待カードの発給など、私達留学生への思いやりと人情味豊かな御支援を頂いた、この広島への心は終生忘れることは無い。

◆第二のふるさと◆

広島は「私の第二のふるさと」と言っても過言ではなく、生まれ育った台湾の彰化の街以外で、広島が一番長い生活の場となった。近い将来私は台湾に帰国する予定であるが、広島での思い出を何時迄も大切にしたいと思っている。そして、広島に参ってからは生まれた二人の子供達が小学校に通い出す頃、広島への心と広島で培ったこの体験を聞かせてやり、出来れば子供達も日本に留学させてやりたいと思う。